ふじみサラダボール子育て情報

「遊び込む充実感」

令和７年１２月１０日号

板橋富士見幼稚園

幼児は遊び込むと安定する

子どもの知の幅は、小さく未完成であり、物事を捉える力は直感的で、僅かな手かがりに思いを巡らせ、遊びを前に進めていきます。この狭い知識の中で、試行錯誤しながら、新たな知識を得ていきます。つまり遊びは、科学者の実験と同じです。
大人から観ると、知識が小さいため論理的ではないところが時に無駄に思えたり、なんでこんなに遠回りしているのだろうと歯痒く思うところもあったりしますが、立派な科学者です。そして、この幼児期に、科学する遊びの力を十分に身に付けた子どもは、物事の仕組みや推論的な力が強く蓄えられるようになってきます。

人間は、教え込まれたことを記憶していくのに、とても大きな負担がかかります。でも遊びの中では、「好きでやっている」主体的自発的な関わりのため、負担無く記憶に留められ、知識として蓄えられるのです。

子ども達が遊んでいるときに、大人が遊びの中にある“科学する姿”を読み取り、遊びが発展的に広がるヒントを与えてあげられることが、「遊び込む」ことに繋がり、知識として蓄えられて、様々な角度から応用していける引き出しを持つようになります。
幼児期には、是非、遊びを通して試行錯誤する経験を重ねながら、科学する力を育ててあげて欲しいものです。

【12 月 10 日の作品展に向けて】

子ども達は様々な技法で繊細に,時にダイナミックに想像の世界を形にすることを楽しみました。